



清心道中金持草鞋  
九

西園巡禮

逍遙文庫  
文庫 6  
1004  
9



文庫6  
1004  
9

西国順礼方終行金草鞋序

西國順礼方終行金草鞋序  
自相の法室能聖取智の妙幸一のひ都世音の靈夢とあり  
あひて諸國と順礼まじりて近江の代々母四郎高徳形勢山記  
善の告子他世遠道一七後三十三所の冥場と先づくは是神子  
めけぬ説の如し人事はためて才一の善根徳大の廣はるる八順  
順礼の切あしを住不憂の罪を滅一人業明徳の秋の月周遍  
は男の多し浮む自性の天恵子やまきの地境より三たもあつた  
あふくは西子のいさる居るくす施せし善報も形一生の接ひを  
好まざるる國々といふ神仏はま清く山川の佳景を三協の鄙俗より  
と歩み只人を愛する思ひこそ西国順礼の名ら有るがう後抄とて  
知れど後集よ本末を東西何れ有るか遂に後集に記すは  
と無窮の礼と書記しおねがはれと有るは思ひのいふが敬徳にお  
まはれ願ふまの順礼るまの代徳を特とす才ふくろと願  
りし一かの世ぞんとの金の草鞋は嗣の形し

十区舎一九題圓因

西國一

伊世山田 田丸



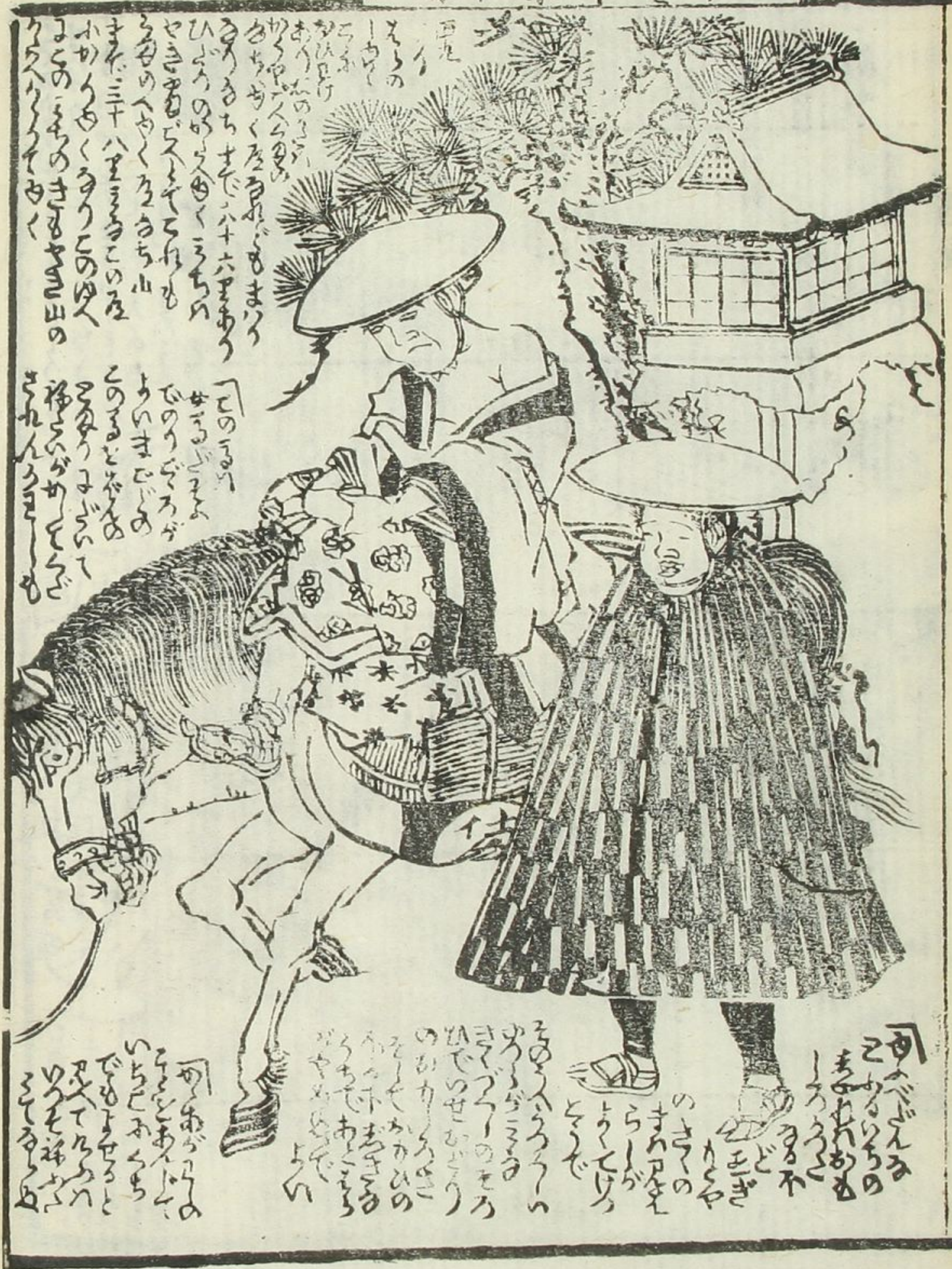
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

西国

原 半 六 一 橋 系 半 一 市 保 川



この山  
のふもとに  
あるのは  
大いなる  
松の木の  
下には  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり

この山  
のふもとに  
あるのは  
大いなる  
松の木の  
下には  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり



この山  
のふもとに  
あるのは  
大いなる  
松の木の  
下には  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり

この山  
のふもとに  
あるのは  
大いなる  
松の木の  
下には  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり  
さかすかに  
あかしの  
花が咲く  
なりけり

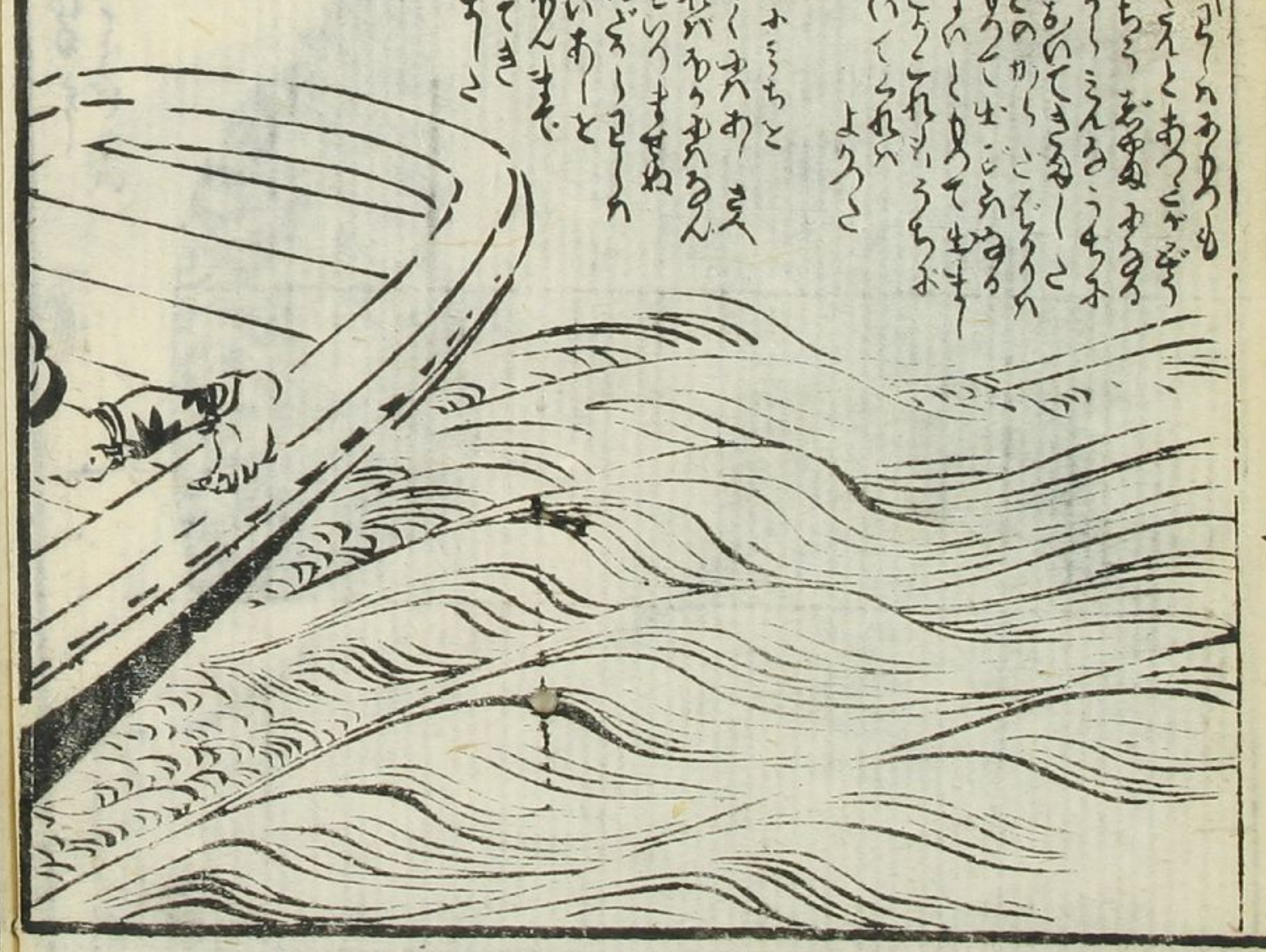
半リ 栢野 一リ 野尻 一リ 三つ

中世の川  
 ふるあつたの川  
 るれも大いのはやわい  
 大のうまのうまのうま  
 の川の川大いなる  
 ひろくまのうまのうま

**狂** いちあふ  
 見はるるうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま

**狂** 柳より  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま

あつたの川  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま



あつたの川  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま

あつたの川  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま

あつたの川  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま

あつたの川  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま  
 うまのうまのうま

山崎 半 古内 一 笑 二 長 三 二

その日のひんちんちんが...  
山崎のちんちんは...  
川ありて大あつ...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...  
ありて大あつ...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...



狂 可あま...  
あしひま...  
あつちんちん...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...

あま...  
あつちんちん...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...

このやどの...  
あつちんちん...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...



あつちんちん...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...  
あつちんちん...

あつちんちん...  
まふらふらふ...  
大あつちんちん...  
あつちんちん...

お目三本一



三浦 馬場 二 一



あき 一り あり 一り 大 泊 半

あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半



あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半  
あき 一り あり 一り 大 泊 半

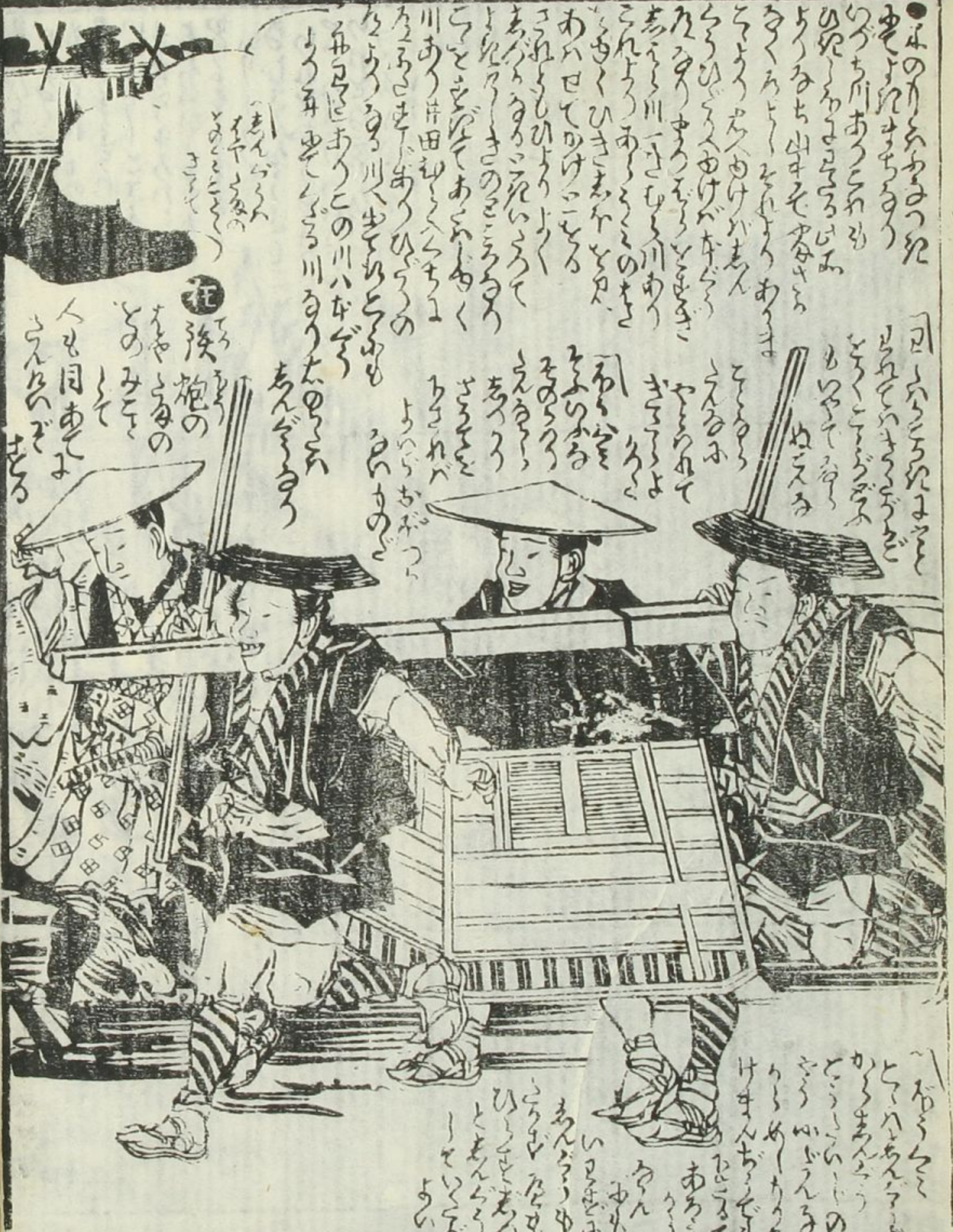






新宮の地はもとより  
 十二社にまつる  
 天池の水は清く  
 新宮の山は高き  
 雲は白く山は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く

其の  
 新馬  
 有馬  
 二リ  
 一リ



其の地はもとより  
 十二社にまつる  
 天池の水は清く  
 新宮の山は高き  
 雲は白く山は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く

其の地はもとより  
 十二社にまつる  
 天池の水は清く  
 新宮の山は高き  
 雲は白く山は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く  
 池の水は清く  
 山の木は青く

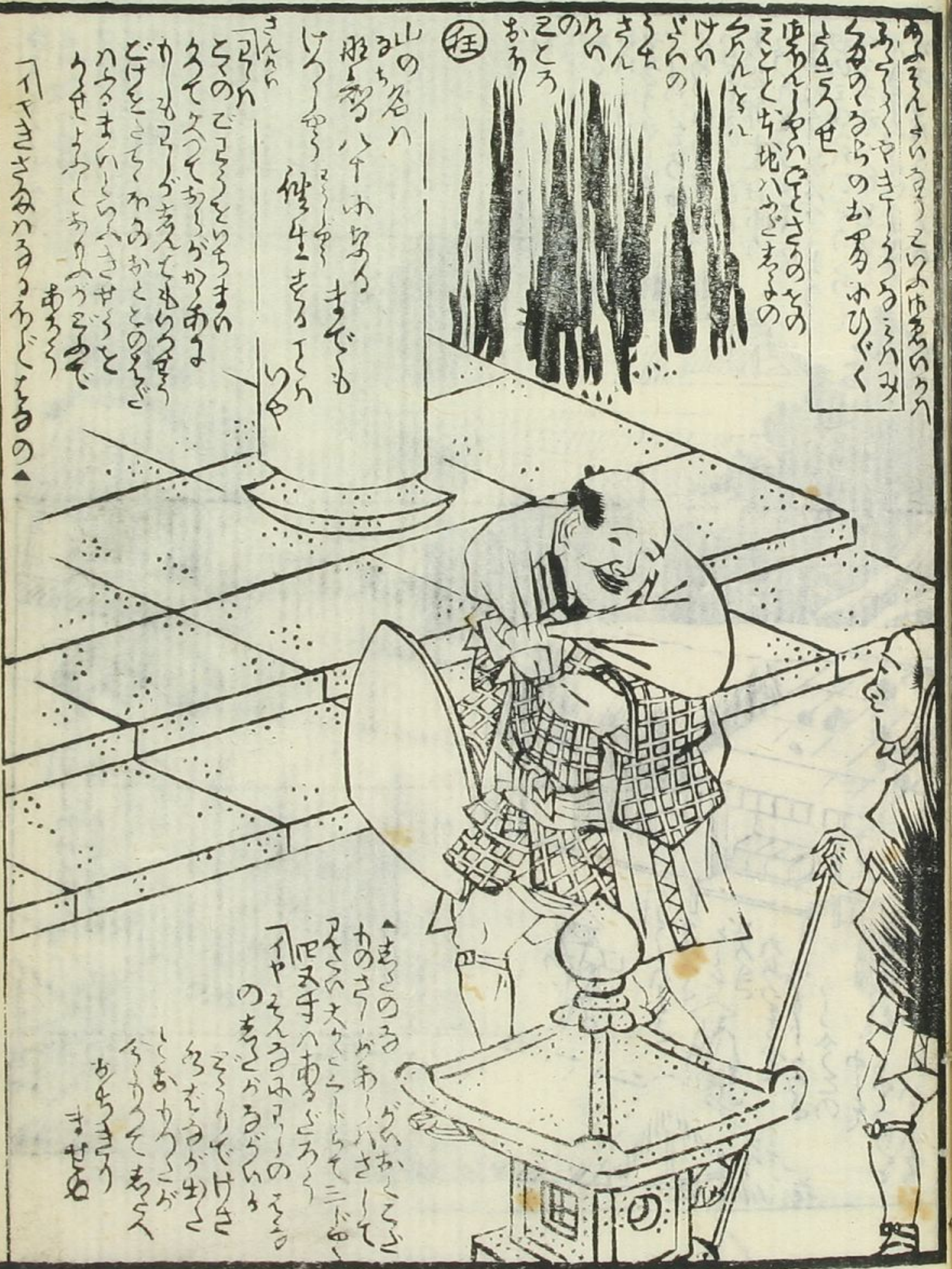
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三五  
三六



三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三五  
三六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三五  
三六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三五  
三六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十



三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三五  
三六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三五  
三六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十



川 中 野 新



川のなかの... 清澄の大池と... 川のなかの... 清澄の大池と... 川のなかの... 清澄の大池と...

「おん...」... 川のなかの... 清澄の大池と... 川のなかの... 清澄の大池と...

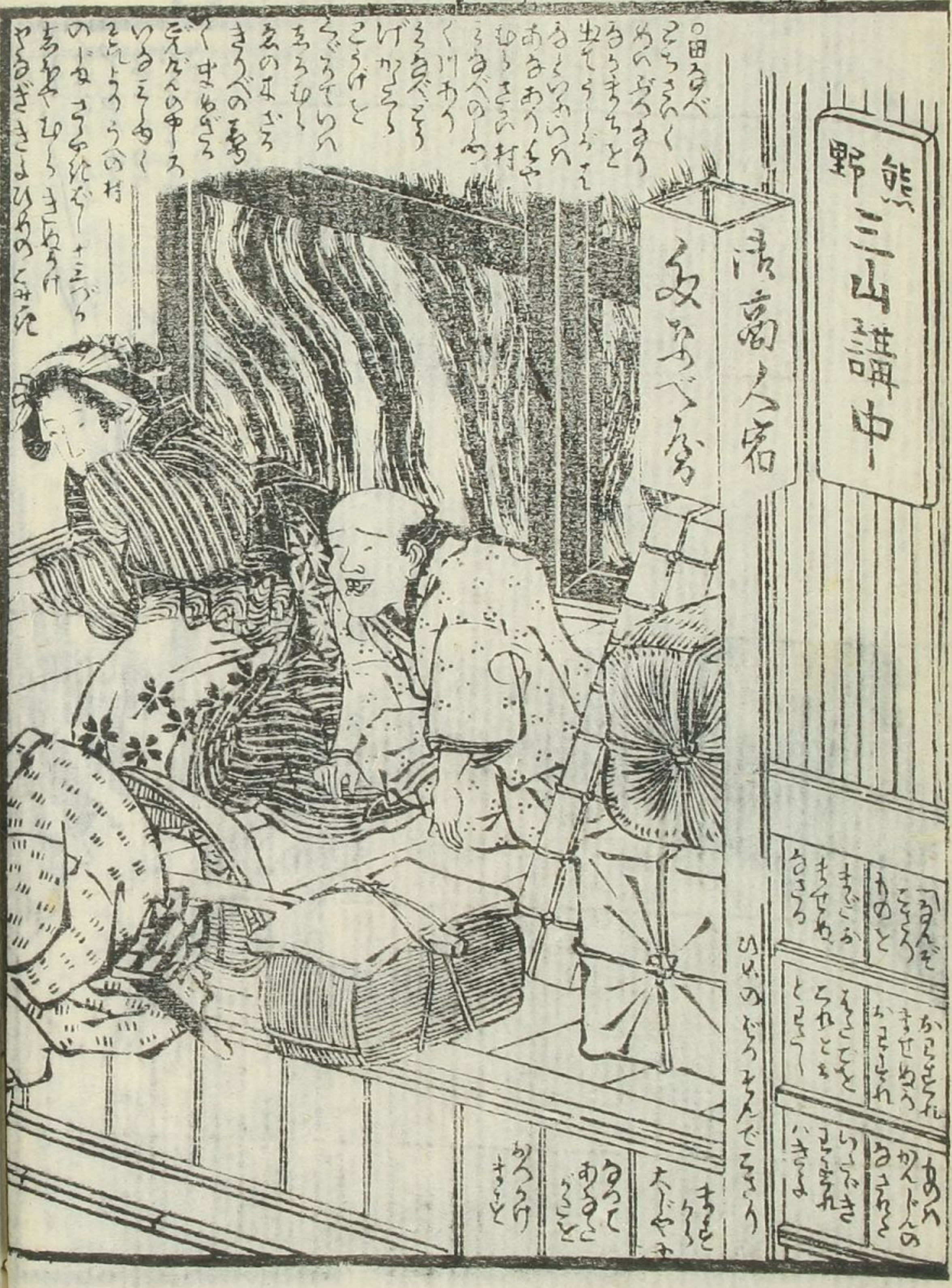
高 志 三 一



高志... 三... 一... 高志... 三... 一...

「おん...」... 高志... 三... 一... 高志... 三... 一...

田カ  
水カ  
相カ  
下カ  
三カ



○田カ  
○水カ  
○相カ  
○下カ  
○三カ  
○田カ  
○水カ  
○相カ  
○下カ  
○三カ



○田カ  
○水カ  
○相カ  
○下カ  
○三カ  
○田カ  
○水カ  
○相カ  
○下カ  
○三カ

○田カ  
○水カ  
○相カ  
○下カ  
○三カ  
○田カ  
○水カ  
○相カ  
○下カ  
○三カ



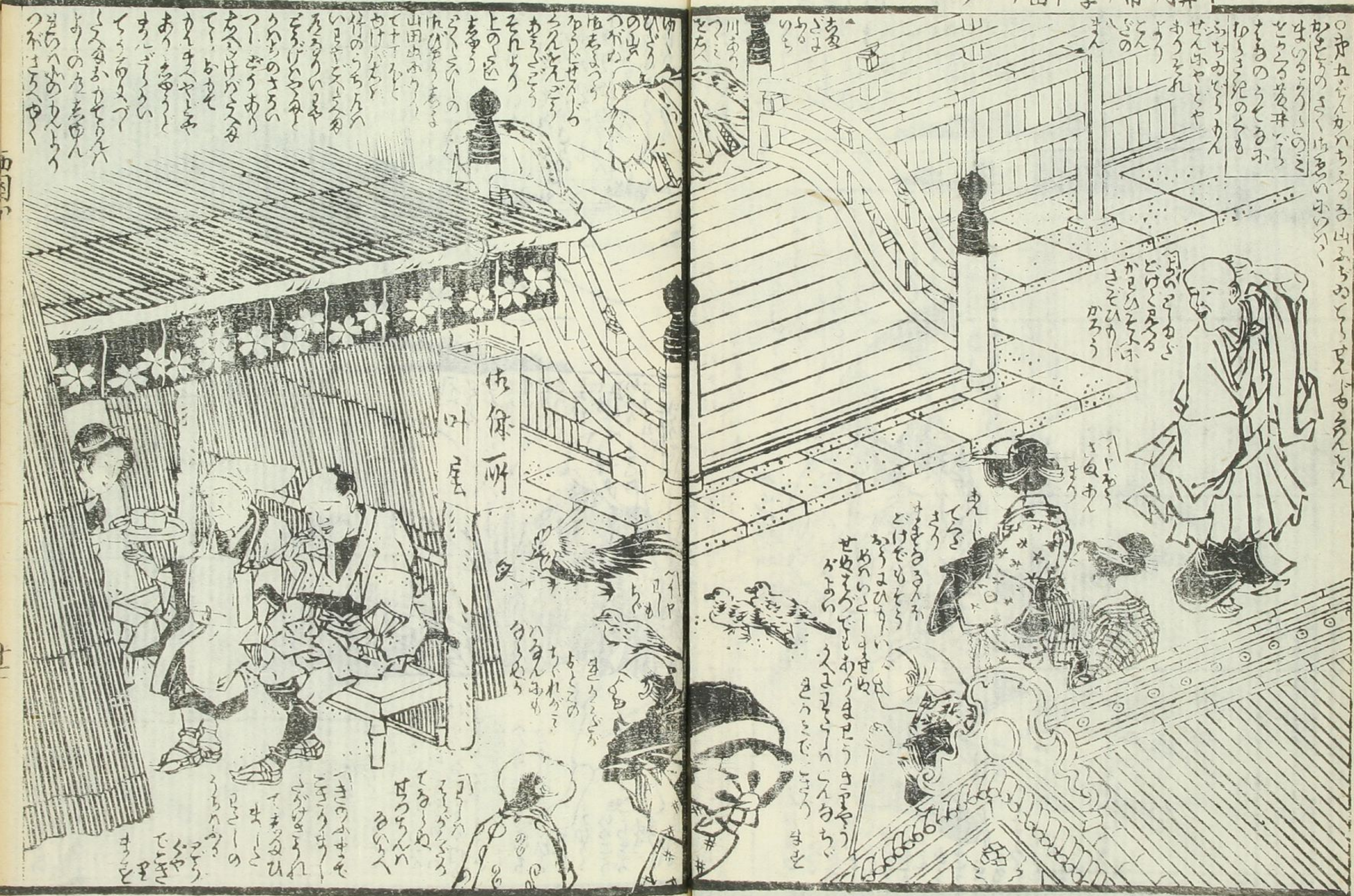








時井 市 去 八 山 當 可



五十四

十六

○中五んかちちるる山ふちめてて見よんてん  
かじのまはちのふのい  
まのころこの  
とくろるる井い  
まのころこの  
わらわのころ

月のかた  
かぢのまはち  
まのころこの  
まのころこの

まのころこの  
まのころこの

まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの

まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの

まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの

まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの  
まのころこの

五十四

十六







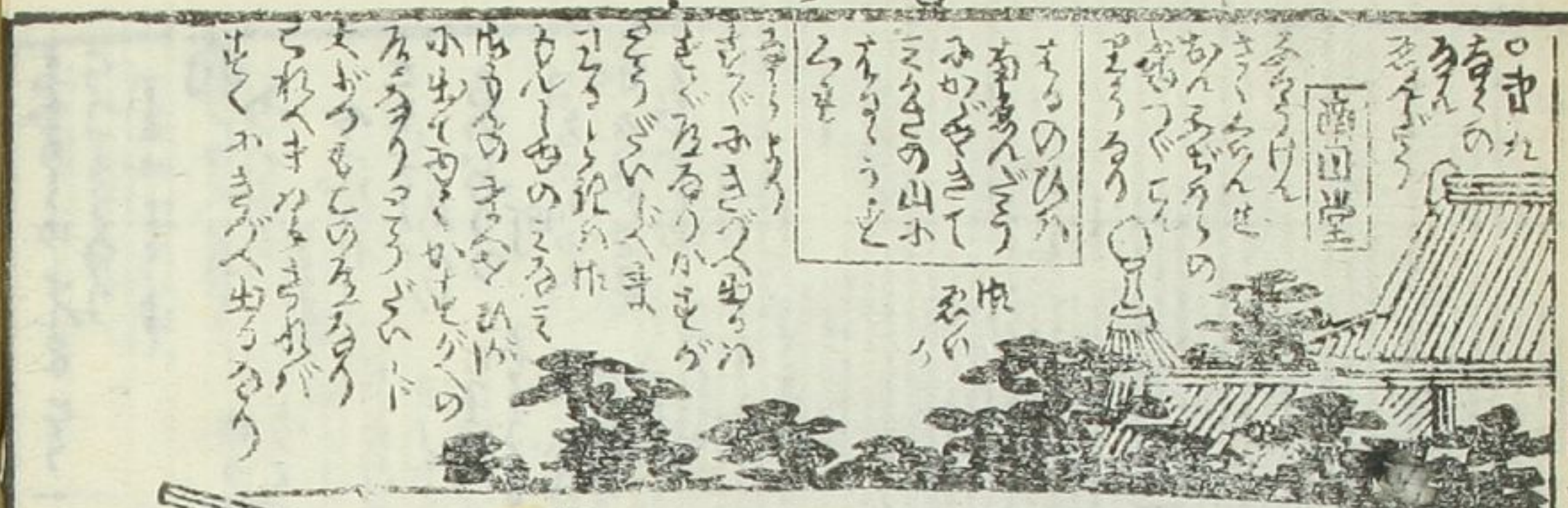
長池 三空 三三 幸



のり け 三 三 幸  
のり け 三 三 幸  
のり け 三 三 幸

のり け 三 三 幸  
のり け 三 三 幸  
のり け 三 三 幸

半 一 一 一 一



半 一 一 一 一  
半 一 一 一 一  
半 一 一 一 一

半 一 一 一 一  
半 一 一 一 一  
半 一 一 一 一



三井寺 今熊 浄水 八丁

○赤十四人 南茂三井寺 赤十四人  
アノキリシヤノオノアノ  
アノキリシヤノオノアノ  
アノキリシヤノオノアノ

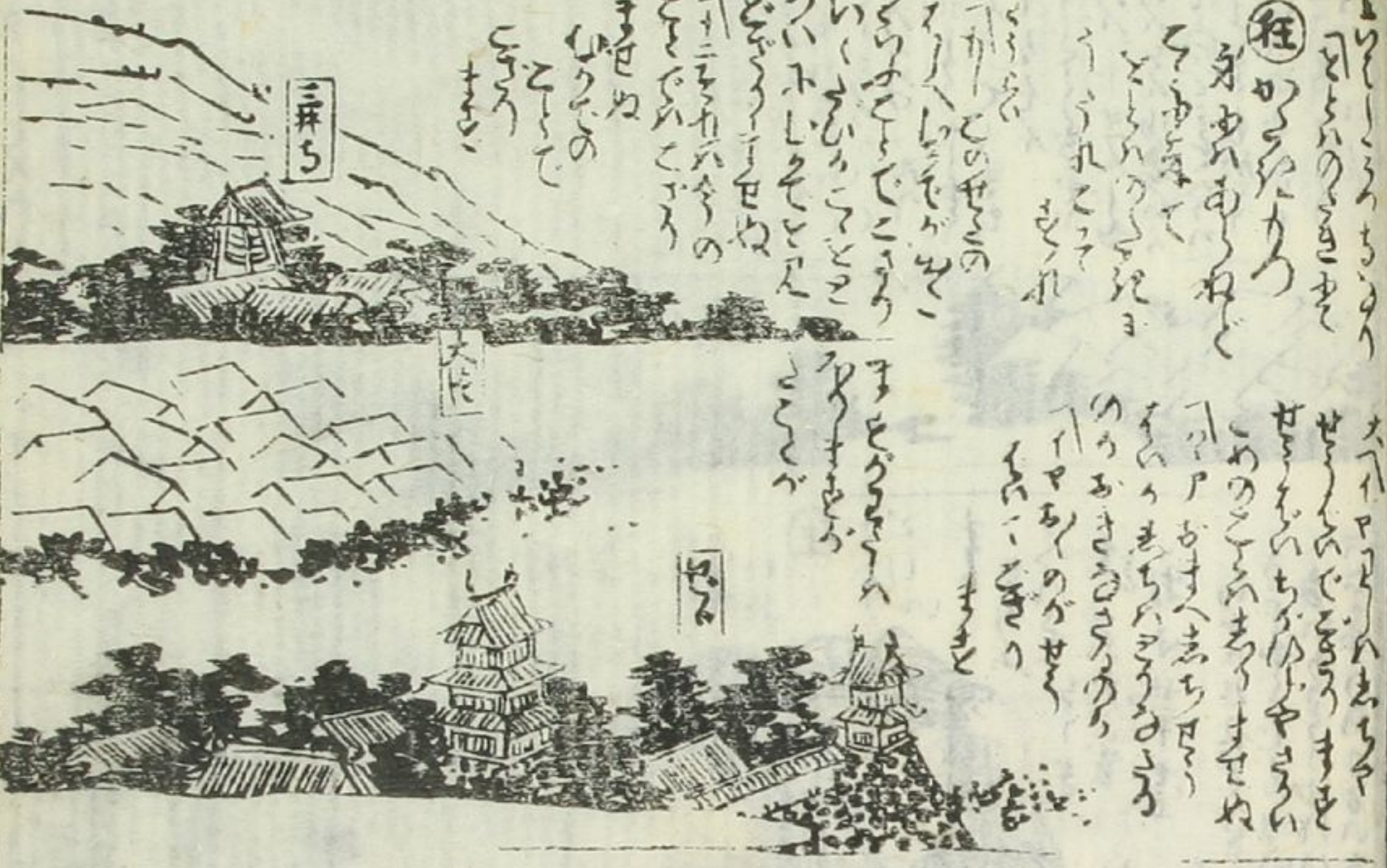
これより今熊へまゐりバ三井寺  
あり三井寺のふちをちやちやと  
こまきこまきとらよこ本町のやわつて  
ちやちやびらふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
赤十五人 京今熊の  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ

三井寺の  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ

三井寺の  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ



三井寺の  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ



三井寺の  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ  
あまふまふあまふまふあまふまふ

三井寺

三井寺

三井寺









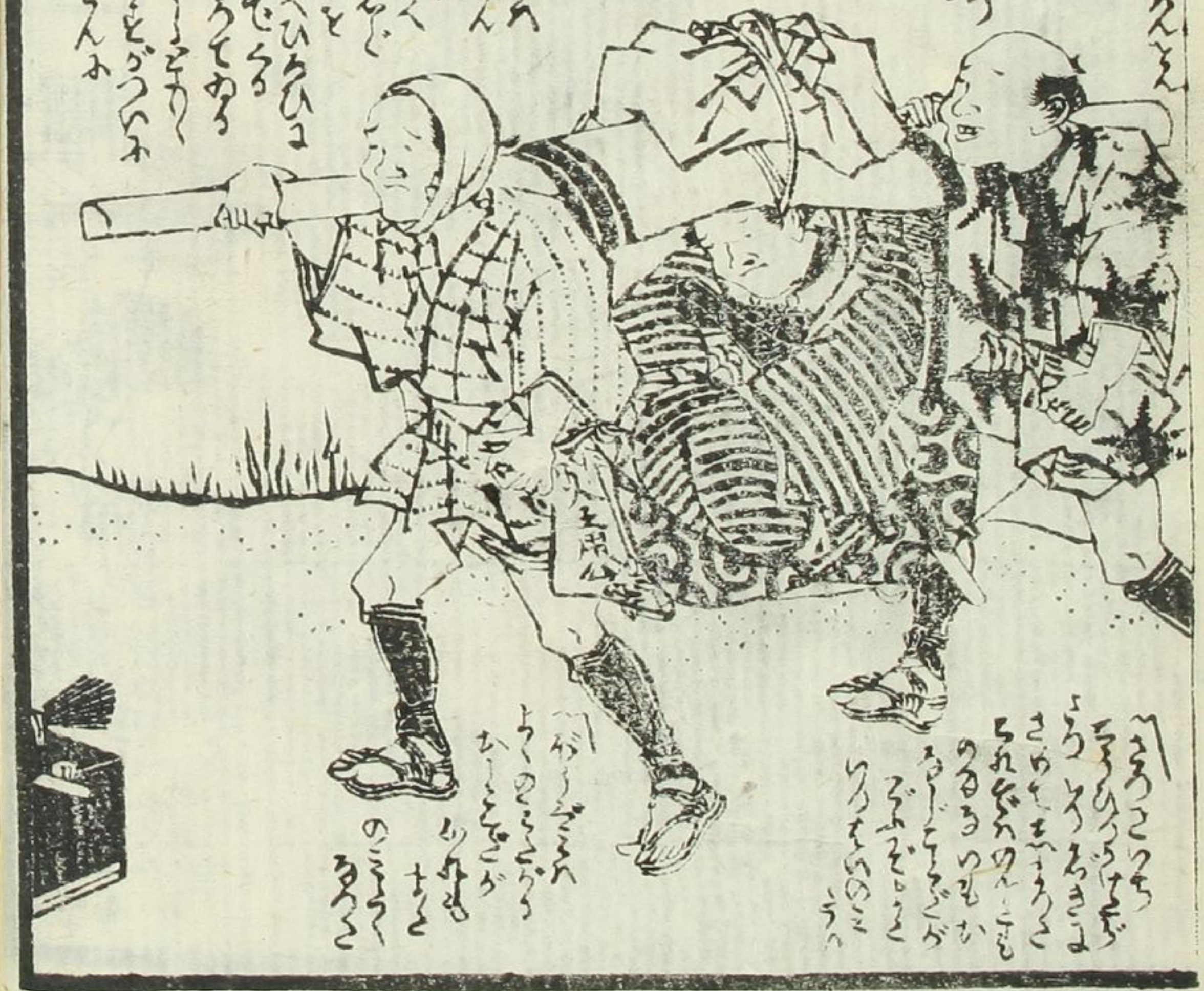




清水一川馬新

西田

清水一川馬新の物語は、昔から有名である。その物語の内容は、清水一川が馬を飼育し、それを売りに出すことになった。その物語の始まりは、清水一川が馬を飼育することになったことである。その物語の終わりは、清水一川が馬を売りに出すことになったことである。その物語の内容は、清水一川が馬を飼育し、それを売りに出すことになった。その物語の始まりは、清水一川が馬を飼育することになったことである。その物語の終わりは、清水一川が馬を売りに出すことになったことである。



清水一川馬新の物語は、昔から有名である。その物語の内容は、清水一川が馬を飼育し、それを売りに出すことになった。その物語の始まりは、清水一川が馬を飼育することになったことである。その物語の終わりは、清水一川が馬を売りに出すことになったことである。



清水一川馬新の物語は、昔から有名である。その物語の内容は、清水一川が馬を飼育し、それを売りに出すことになった。その物語の始まりは、清水一川が馬を飼育することになったことである。その物語の終わりは、清水一川が馬を売りに出すことになったことである。

本堂再建

清水一川馬新の物語は、昔から有名である。その物語の内容は、清水一川が馬を飼育し、それを売りに出すことになった。その物語の始まりは、清水一川が馬を飼育することになったことである。その物語の終わりは、清水一川が馬を売りに出すことになったことである。

西田

西田

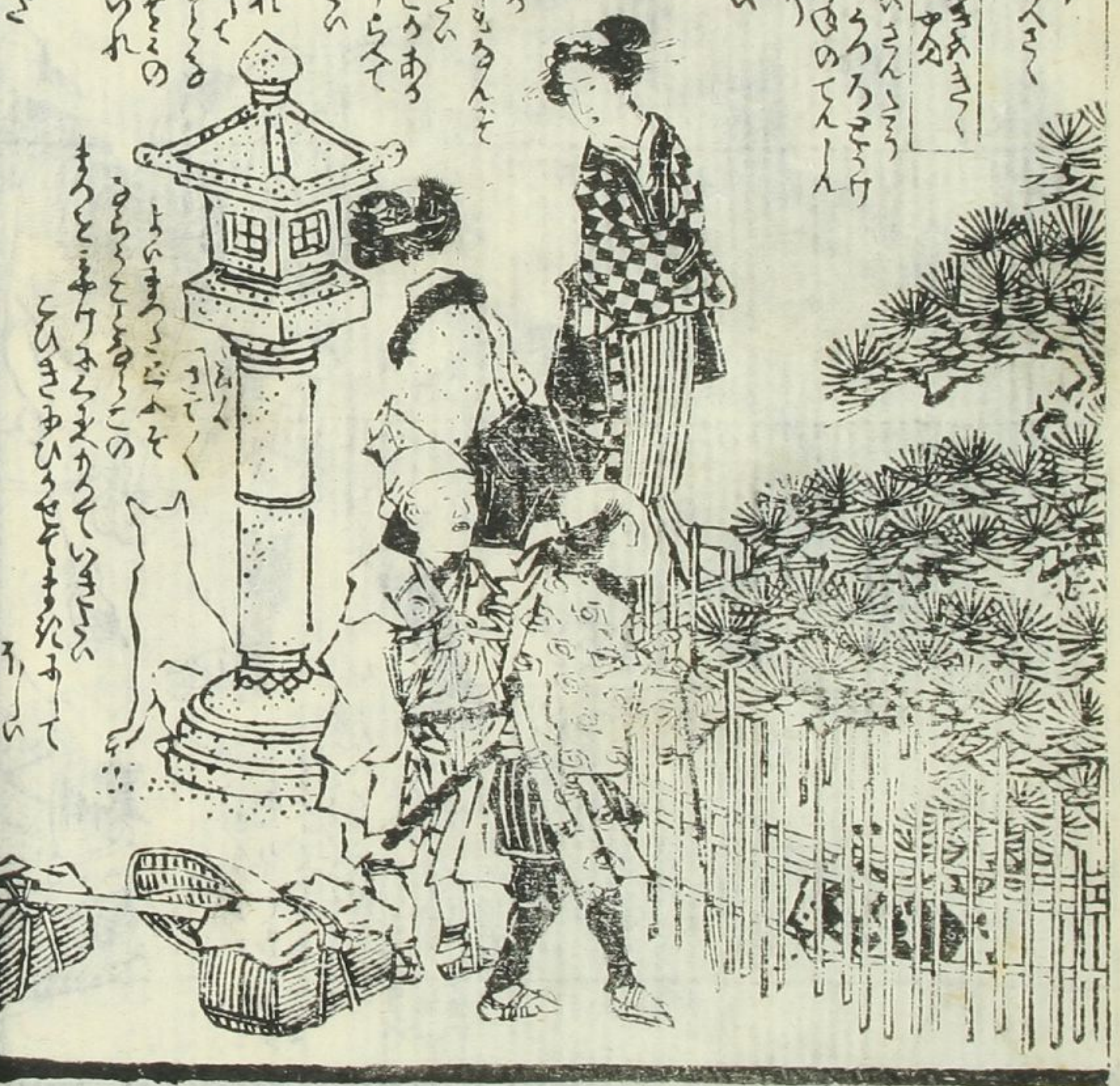
野村 十鐘 笠系



花寺 三 曾 三

此ハ八幡山一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...

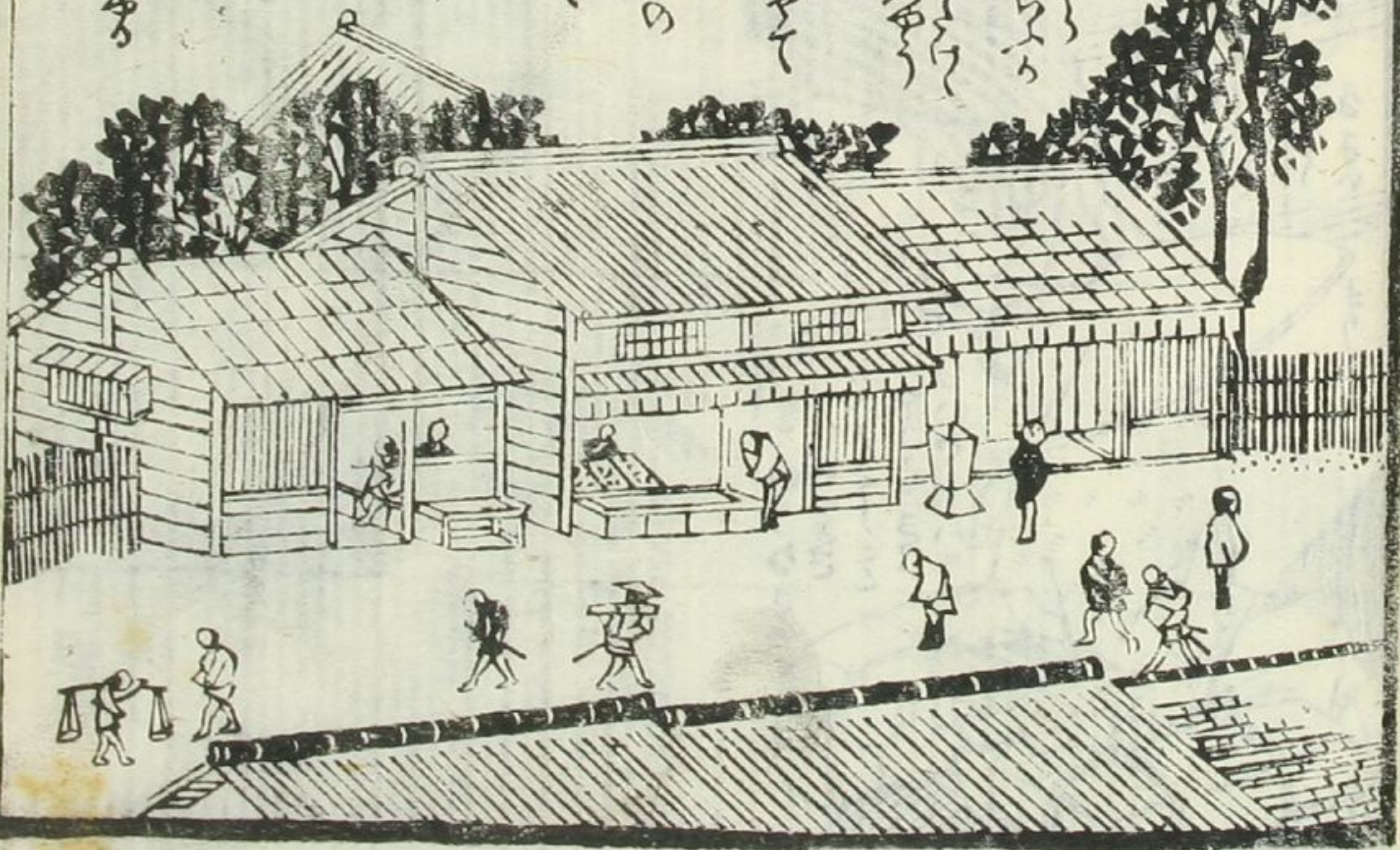
此ノ寺ノ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...



姫路 三 山 三 小 三



此ノ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...  
三ツ山ノ一ツ山...



姫路

花寺





追 上 守 地 守 山 口



あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ

あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ

あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ



あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ

あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ

あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ  
あひあひ  
まへまへ





三州之田一覽

ふつよりとんとと... 三州の田の一覧... 三州の田の一覧...



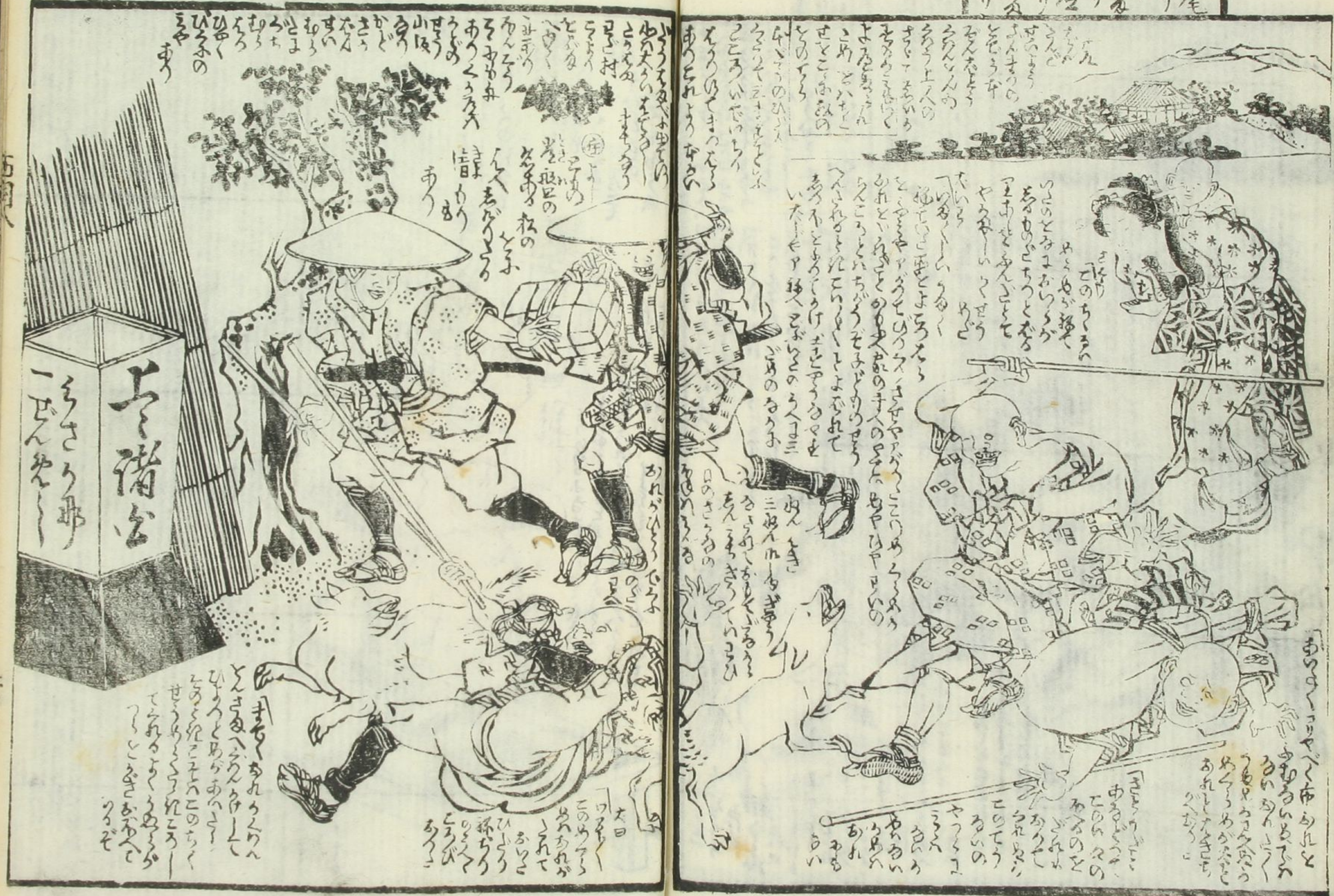
中山二河



Small vertical text on the left margin of the right page.

Small vertical text on the right margin of the left page.

松尾 高行 本行 小名 三行



正国ハ

正国ハ

松尾高行の事  
 高行は、本行の弟也。幼少より、  
 武勇に長じ、父の仇を討つべしと  
 誓ひ、修行に入る。其の志は、  
 一途にして、遂に名震る。其の  
 事、世に傳へ、人々を驚かし、  
 慕はる。高行は、其の志を遂げ、  
 父の仇を討つ。其の事、世に傳へ、  
 人々を驚かし、慕はる。高行は、  
 其の志を遂げ、父の仇を討つ。

山崎村の事  
 山崎村は、高行の故郷也。高行は、  
 幼少より、武勇に長じ、父の仇を  
 討つべしと誓ひ、修行に入る。其の  
 志は、一途にして、遂に名震る。其の  
 事、世に傳へ、人々を驚かし、慕はる。  
 高行は、其の志を遂げ、父の仇を  
 討つ。其の事、世に傳へ、人々を  
 驚かし、慕はる。高行は、其の志を  
 遂げ、父の仇を討つ。

高行の事  
 高行は、本行の弟也。幼少より、  
 武勇に長じ、父の仇を討つべしと  
 誓ひ、修行に入る。其の志は、  
 一途にして、遂に名震る。其の  
 事、世に傳へ、人々を驚かし、  
 慕はる。高行は、其の志を遂げ、  
 父の仇を討つ。其の事、世に傳へ、  
 人々を驚かし、慕はる。高行は、  
 其の志を遂げ、父の仇を討つ。

山崎村の事  
 山崎村は、高行の故郷也。高行は、  
 幼少より、武勇に長じ、父の仇を  
 討つべしと誓ひ、修行に入る。其の  
 志は、一途にして、遂に名震る。其の  
 事、世に傳へ、人々を驚かし、慕はる。  
 高行は、其の志を遂げ、父の仇を  
 討つ。其の事、世に傳へ、人々を  
 驚かし、慕はる。高行は、其の志を  
 遂げ、父の仇を討つ。

高行の事  
 高行は、本行の弟也。幼少より、  
 武勇に長じ、父の仇を討つべしと  
 誓ひ、修行に入る。其の志は、  
 一途にして、遂に名震る。其の  
 事、世に傳へ、人々を驚かし、  
 慕はる。高行は、其の志を遂げ、  
 父の仇を討つ。其の事、世に傳へ、  
 人々を驚かし、慕はる。高行は、  
 其の志を遂げ、父の仇を討つ。

上ノ階  
 一びん









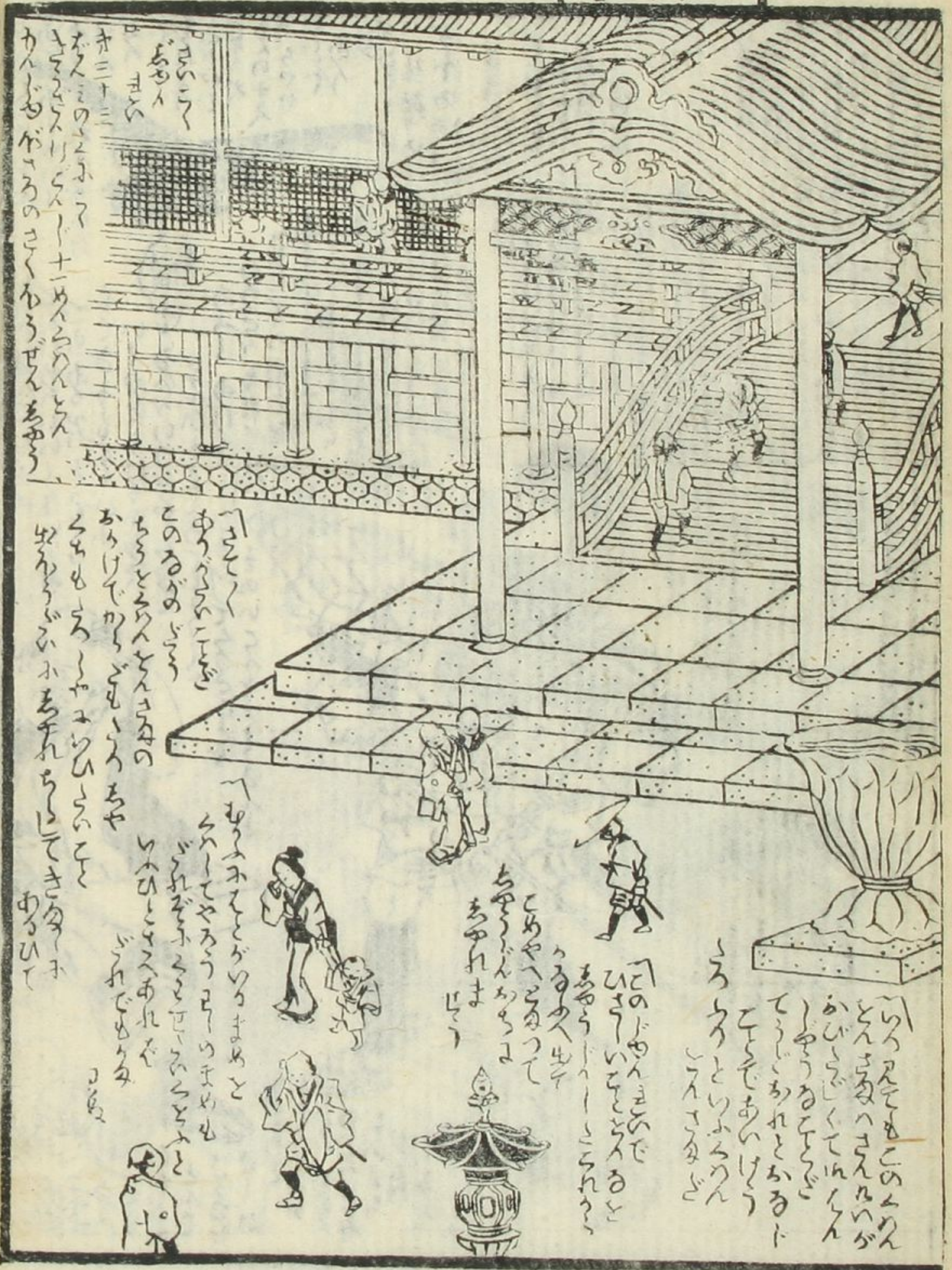








美の谷 三十三番



あまのついでに...  
 まるごとく...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...

あまのついでに...  
 まるごとく...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...

あまのついでに...  
 まるごとく...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...



あまのついでに...  
 まるごとく...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...

あまのついでに...  
 まるごとく...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...

あまのついでに...  
 まるごとく...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...  
 美の谷...  
 三十三番...

西国順礼金草鞋九編大尾

この西国順礼の金草鞋は、  
 三千三百三十三の  
 多岐な草鞋の  
 中から選りすぐり  
 して、その中から  
 最も美しいと  
 思われるものを  
 選りだして、  
 これを金草鞋と  
 呼ぶ。これは  
 西国順礼の  
 金草鞋の  
 特徴である。  
 西国順礼の  
 金草鞋は、  
 西国順礼の  
 金草鞋の  
 特徴である。



西国順礼の  
 金草鞋の  
 特徴である。

坂東  
 順礼  
 金草鞋

十返舎  
 全六冊著

一返舎  
 一九戲著

扶父  
 順礼  
 同

同著  
 全六冊著

歌川  
 國直画  
 呈回

西国九

四十五

早稲田大学図書館

011688991880